

歯肉炎、歯周病のメカニズム

城里町歯科医師会

今の時期は幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校で歯科検診が行われます。

わたしも保育園、中学校、高等学校の校医をしておりまして、最近も歯科検診を行ってきました。昔に比べて虫歯はかなり減ってきていて、虫歯が無くて治療の痕も見受けられない生徒がかなり多くみられます。しかしながら、そのような生徒でも歯肉炎あるいは歯肉炎になりそうな状態が見られることが大変多いので問題です。そこで今回は歯肉炎、歯周病がなぜ起こるかを説明していきます。

1. 口の中の健康はこうして保たれています

健康な状態であってもごくわずかな細菌が存在します。人の体には、もともと細菌の活動に抵抗する力があり、歯肉溝(歯と歯肉の境目の溝)の部分には、白血球、マクロファージ、リンパ球が移動してきます。そして細菌と戦う準備をします。これが免疫の働きです。このように人体には防御機構がはたっているのです。

2. むし歯も歯周病も細菌感染症です

むし歯も歯周病も細菌により起こります。細菌は、歯の表面や、歯肉についたプラーク(歯垢)の中に居ます。細菌の活動に対する抵抗力(生体の防御力)は人によって大きな差があり、むし歯や歯周病になりやすい人と、なりにくい人がいるのは、そのためです。

3. なぜ歯周病になるのでしょうか

歯周病は歯と歯肉のあいだ(歯肉縁下)に入った歯周病菌により起こります。細菌の活動は歯と歯肉の間の結合組織を徐々に壊し、すき間(歯周ポケット)を作ります。

このとき生体の防御力はタバコやストレスなどの危険因子によって、大きく左右されます。組織に進行したものが歯周病です。

4. 歯肉炎は知らないあいだに始まっている

口の中の細菌数が増えるにつれて、歯肉溝の部分に炎症症状が現れます。歯肉が赤く腫れ、出血が起こり、仮性ポケットが形成されます。これが歯肉炎です。この段階で、病気に気づいて適切な治療を受ければ、大部分の歯肉炎は健康な歯肉に回復します。

5. こうなったら歯周病

歯肉炎を放っておくと、歯と歯肉を結びつけている歯周靭帯(歯根膜)がこわれ、そこに歯周ポケットが形成されます。続いて歯槽骨(歯の周りの骨)が吸収して歯はぐらぐらになり(歯の動揺)、さらには歯周ポケットからうみが出るようにもなります。

進行してしまった歯周病は、治療して元通りの歯肉や歯槽骨の状態に戻すことはできません。しかし、患者さんと歯科医の努力によって、ある程度まで健康な状態を取り戻すことは可能です。

すこしでも不安なことがあったら、最寄りの歯科医に相談してみてください。

8020高齢者よい歯のコンクールに応募してみませんか？

対象者	80歳以上(誕生日が昭和10年3月31日以前)で、自分の歯(治療歴があっても可)を20本以上有する方〔過去の入賞者を除く〕
募集方法	下記①～⑥の必要事項を記載し、官製ハガキまたはFAXで茨城県歯科医師会宛にお申し込みください。申し込まれた方に口腔審査票を送付しますので、茨城県歯科医師会に加盟している歯科医院で検診を受けてください。 ＜必要事項＞ ①郵便番号及び住所 ②氏名(ふりがな) ③性別 ④生年月日 ⑤電話番号 ⑥かかりつけまたは最寄りの歯科医院の名称
応募期間	7月17日(金)まで〔必着〕
入賞者	最優秀1名、優秀5名、シニア賞1名、茨城県歯科医師会長特別賞1名

申込先・問合せ 茨城県歯科医師会 8020事業係 (〒310-0911 水戸市見和2丁目292の1)
☎029-252-2561 FAX 029-253-1075